

令和元年度 施策評価シート

基本目標		安心して暮らせる「すみだ」をつくる
政策	410	災害や犯罪から身を守る、安全・安心なまちとしくみをつくる
施策	413	地域で連携し、犯罪抑止力・対応力を高める
施策の目標	区民と区内事業者が連携した地域の力でさまざまな防犯対策に取り組むことにより、犯罪が未然に抑止され、すべての人が安全で安心な暮らしをしています。	

1 基本計画における成果指標の状況

指標名	「区と一緒に、区の事業やイベントなどを企画したり、実施したことがある」区民の割合									
	基準年(H28)	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標	18.4				22.0					26.0
実績	18.4									
指標名	刑法犯の認知件数									
	基準年(H28)	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標	3370				3200					2800
実績	3370	2630								

2 目標と現状(実績)についての分析及び総事業費推移

指標の推移・施策の課題や問題点について記述	総事業費推移(千円)	
一定額の補助はしているものの、燃料費調整制度に応じて電気代が上下するため、申請団体からはそれに連動した補助金額にしてほしいとの要望がある。	H28	8,764
	H29	8,787
	H30	21,238

3 施策の評価及び判断理由

評価	理由
B	燃料調整制度に応じた補助金の要望や申請に応じた事業費の移り変わりは、地域連携による犯罪抑止力意識の向上の表れといえるため。

4 今後の施策の運営方針

評価結果	施策の戦略的方向性
	(1) 優先的に資源投入を図る。
	(2) 現状維持とする。
	(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
	(4) 資源投入の縮小を図る。
【上記の判断理由】	
これまで使用されている私道防犯灯については、水銀灯、蛍光灯といった水銀を使った製品であり、特に水銀灯については2020年以降は製造も輸出入も禁止されるため、LED化が求められる。	
【今後の具体的な方針】	
私道防犯灯数は約2900本であり、うち平成26年度から現在まで約300本をLED化にしてきた。今後は水銀灯を中心にLED化にするための計画的助成を行う。	

5 この施策に係る事務事業（重要度・貢献度順）

番号	事務事業名	歳出 決算額 (千円)	人コスト (千円)	歳出 総額 (千円)	施策への関連性	目的に対する指標	
						年度目標値	直近の評価内容
						年度実績値	評価結果
							評価対象年度
1	私道防犯灯助成事業費	21,238	14,765	36,003		2,170	改善・見直し
						1,818	平成30年度
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							

事業の成果	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	防犯灯のLED化基数				単位	基
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		3,000	R13	目標	215	318	421	524
				実績	215	321	427	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
	目標	734	944	1,154	1,364	1,574	1,784	
	実績							
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	<p>・指標の選定理由:私道防犯灯は主に蛍光灯が使用されているが、令和2年度以降、水俣条約により、生産が減少し、補充が難しくなるため、LED化が必要となる。</p> <p>・LED化が始まったH27年度からの4年間の平均基数103基とR2年度から基数は約倍増し210基とする。</p>							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	犯罪件数(非侵入窃盗)				単位	件
最終目標値		目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1	
1,925		R7	目標	2,244	2,205	2,170	2,135	
			実績	2,244	1,935	1,818		
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	
目標	2,100	2,065	2,030	1,995	1,960	1,925		
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
防犯灯の維持管理を地域で行うことにより、区民の防犯意識や夜間の通行環境が向上し、「すり」や「ひったくり」などの非侵入窃盗が減少する効果が期待されるため。								

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	私道防犯灯については、公共性が高く電気代の補助は、今後も継続していく。 また、水俣条約により、令和2年度以降、蛍光灯等の生産が減少することからLED化については急務である。 令和元年度は、LED化計画のベースとなる台帳作成を行っていく。

課題・問題点
<p>・水俣条約により令和2年度から蛍光灯等の生産が減少し補充が難しくなることから、令和元年度に防犯灯の全基調査を行い、令和2年度は、リース化と工事費助成の比較検討し、効率的・効果的なLED化計画を作成する必要がある。</p> <p>・区道の街路灯、公園の園内灯がLED化され、間に挟まれる私道との照度の差が明確になり、私道防犯灯についてもLED化が求められる。</p>

補助金名称	私道防犯灯補助金			主管課・係（担当）		
根拠法令	墨田区防犯灯補助金交付要綱			都市整備課庶務・細街路対策担当		
補助概要	道路交通の安全、犯罪防止及び都市美化を図るために設置した防犯灯の電気代を補助する。			03-5608-6292		
目的	防犯灯の維持管理を地域で行うことにより、区民の防犯意識や夜間の通行環境が向上し、「すり」「ひったくり」などの非侵入窃盗が減少する効果が期待される。					
対象	第2条 補助金は、道路交通の安全、犯罪防止及び都市美化を図るため、私道又は私有地に道路を直接照明するための防犯灯を設置した町会又は個人（以下「町会等」という。）に対し交付するものとする。ただし、自家用として設置したものを除く。					
基準	区独自基準					
補助条件	第2条 補助金は、道路交通の安全、犯罪防止及び都市美化を図るため、私道又は私有地に道路を直接照明するための防犯灯を設置した町会又は個人（以下「町会等」という。）に対し交付するものとする。ただし、自家用として設置したものを除く。 第4条 補助金の交付を受けようとする町会等は、補助金交付申請書（別記様式）に設置箇所平面図を添え、区長に申請しなければならない。					
経過	開始年度	昭和44年度	終了予定			
	昭和44年度から、墨田区私道防犯灯補助金交付要綱が制定され開始した。					
議会質問の状況	特になし					
その他特記事項	（他区の状況・年間スケジュール・関連部署等） ●経緯 区民の生活道路として公共性の高い私道の整備を促進し、区民の生活環境の向上に資することを目的とする。 ●スケジュール 年度毎に町会等から防犯灯の電気料について補助申請を受け、その一部を補助金として交付する。					

予算・決算額推移（千円）		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度
予算額（事業費）		8,836	8,824	8,767	8,842	21,644	22,000
決算額（令和元年度は見込み）		8,696	8,744	8,767	8,787	21,238	22,000
財源	国						
	都						
	その他						
一般財源		8,696	8,744	8,767	8,787	21,238	22,000
執行率（％）		98.4%	99.1%	100.0%	99.4%	98.1%	100.0%

補助金の 成果	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	防犯灯のLED化基数				単位	基
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		3,000	R13	目標	215	318	421	524
				実績	215	321	427	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	734	944	1,154	1,364	1,574	1,784
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	電気代を助成している防犯灯の本数である。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	犯罪件数(非侵入窃盗)				単位	件/年
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		1,925	R7	目標	2,244	2,205	2,170	2,135
				実績	2,244	1,935	1,818	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標		2,100	2,065	2,030	1,995	1,960	1,925	
実績								
指標の選定理由及び目標値の理由								
防犯灯の維持管理を地域で行うことにより、区民の防犯意識や夜間の通行環境が向上し、「すり」「ひったくり」などの非侵入窃盗が減少する効果が期待されるため。								
評価結果		評価についての説明・今後の方向性等						
改善・見直しのうえ継続		<p>マンション建設による町並みの変化や防犯灯の多様化による助成金の改善・見直しが必要である。</p> <p>今後も引き続き、犯罪防止維持のため防犯灯の補助を行っていく。</p>						

課題・問題点	
<p>灯具が蛍光灯等からLEDに替わることで見直しの必要がある。</p>	